入院保証による安心感

患者の支払い能力の判断指標 高リスク患者には入院中から介入

多田英人 理事事務長

地域に密接し、二次救急病院として急性期を担っている同愛会病院では、「入院医療費保証サービス」を活用し、未収金を減らしている。

前金と併用して運用 段階的評価が可能に

カード払いや後払い方式を取り入れて未収金の問題に取り組んでいる同愛会病院は入院医療費の未収に課題を抱えていた。そこで同院が導入したのがナップ賃貸保証株式会社の「入院医療費保証サービス」(以下、入院保証)だ。

もともと同院では入院時の保証として、前金10万円の支払いを求めていた。しかし、退院時に入院費を除き返還されるとはいえ、一時の持ち出し金額が高額で支払えないケースも散発していた。その対策として、入院保証を導入したところ、未収の発生リスクの判断に使えることがわかってきた。多田英人理事事務長は「前金の10万円を支払うか、患者さんに7000円の保証料を支払ってもらうか、保証料すらも支払うことが難しいのか、というように患者さんの支払い能力を図る一つの指標にもなっています」と話す。

2021年2月より同サービスを導入し、延べ589件の入院保証の加入があり、立て替え請求額は累積226万8673円。多田事務長は「未収が多く発生する救急搬送での未収は東京都の補助金が支払われています。しかし、予算に限りがあるため、全額の回収は難しく、入院保証の安心感は大きいです」と話す。

導入にあたっての業務の変化について、現場で説明にあたっている住吉彩さんは「導入当初は入院保証の説明が加わったことで業務の煩雑さを感じていました。しかし、振り返るとナップ賃貸保証のスタッフから応対フローを使って職員向けに説明があるなどのフォローもあり、業務量は大きく増えませんでした。また、最近は病院の制度として入院保証があると患者さんのなかで徐々に理解が広がり、説明の負担が軽減され、加入率も上がっているように感じます」と話す。一方で、督促業務は電話や手紙による連絡など長期化するほど多くのやり取りが必要となるが、こうした業務の負担感について、受付業務を担当する武藤浩さんは「現状では入院保証の未加入もあり、大きく業務負担の軽減はできていません。より地域で入院保証の理解が深まり、加入率が高まれば業務負担の軽減にもなると期待しています」と語った。

多田事務長は、「入院中から高リスクな患者に絞って、未収の対策ができることは大きいです。より入院保証の認知度が向上することで、未収のリストアップの効果が高まっていくと考えています」と地域理解を求めていくと展望した。

医療法人社団　同愛会病院

住所　東京都江戸川区松島1-42-21
TEL　03-3654-3311
URL　https://www.douaikai.jp/index.html
病床数床　149床
診療科　9科
職員数　290人

(C) 2023 日本医療企画